



CO-SHA ソウゾウ プロジェクト 最終報告書

令和6年2月5日

IMPULS合同会社

「人を想い我を磨く 湯沢町みんなの夢みる学校図書館プロジェクト」

目次

- p.3 プロジェクト概要/テーマ
- p.4 プロジェクト参加背景、課題
- p.5 プロジェクトゴール
- p.6 実施体制
- p.7 活動実績/全体スケジュール
- p.8 活動実績/実施内容：10-11月
- p.19 活動実績/実施内容：12月
- p.26 活動実績/実施内容：1月
- p.38 プロジェクト活動のまとめ
- p.39 今後に向けた課題
- p.40 プロジェクト活動全般の振り返り



プロジェクト概要/テーマ

学校図書館を拠点とした、オール湯沢・ラーニングコモنزの創造

町内で唯一の公教育施設湯沢学園内にある「学園図書館」を拠点に、子どもたちの豊かな心を育み、全ての学習の基礎となる「本」との出会いを、町全体で支えるための「ラーニングコモنز」をつくるプロジェクト。学園図書館内のレイアウトを変更し、廊下や地域交流センターなど人が行き交う共用スペースを活用し読書空間を拡張させることで、子どもたちが本や情報によりよくアクセスしたり、協働的・創造的な活動を促進したりするための、読書環境の整備・整美を目指す。子どもたちの読書の量と質がどのように変化するか、小規模な実証実験を行う。

* ラーニングコモنزとは？

「知の循環」が生まれる学習空間。本などから情報を得るだけでなく、複数の人が知識や情報を共有することで、創造的で協働的な学習を支援する空間。

* 学校図書館は、学校における「知」を循環させるいわば心臓部。

「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」

「児童又は生徒及び教員の利用に供するもの」

「学校図書館は、その目的を達成するのに支障のない限度において、一般公衆に利用させることができる。」

プロジェクト参加背景、課題

図書ボランティアや保護者たちの声

- 司書がおらず、図書室を利用する子どもが限定的。特に中学生にとって使いやすい図書室になっていない。
- 蔵書数はあるが古く、点検・入れ替えもできていない。子どもたちにとって魅力的な空間になっていないのでは。
…子どもたちがもっと本に親しめるように「図書室」→「学校図書館」として機能させたい。

拡大学校運営協議会での熟議など

- 豊かな心を育むこと。教育目標「人を想い、我を磨く」、重点目標「求めて学ぶ」の達成
- 読解力・言葉の力の育成（デジタルメディアに触れる時間が長い傾向にある。）
- 図書室の本貸し出し冊数は小学校は全国平均の半分程度で、中学生は全体で年間数冊しかない。
- 全国に先駆けてできた保小中一環コミュニティスクール。
開校当初は図書室を一般開放していたが、利用者も蔵書も少なかったため、現在は一般開放していない。
* 開放しただけでは、人は来ないし利用しない。
子どもも地域の大人も互いに学び合えるような「場所と仕組み」を作りたい。

コミュニティスクールという特色を活かした「学校図書館」をつくれませんか？
先生に負担かけないよう、地域の大人たちでできるアクション＝プロジェクト参加

プロジェクトゴール

読書量が自然と向上する空間があり、

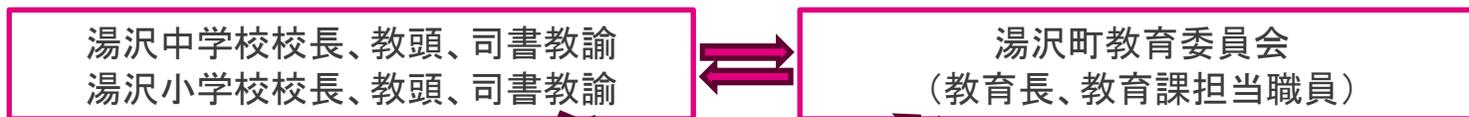
豊かな読書体験*によって“人を想い 我を磨く”を実現する

- もの：学校図書館のレイアウトや配架の変更により児童生徒が図書に親しめる図書室内・外の環境が整備され、「本」を通じた児童生徒・地域住民・教員による学び合いや交流を促進するための環境が整備される。
- ひと・こと：湯沢学園に在籍する児童生徒たちが本や人との豊かな出会いが身近にあると感じ、それらを積極的に手に取ってみたり関わってみようとする子どもが増える（先生や地域の大人も同様に）。

*「豊かな読書体験」の3要素

- 「本」との豊かな出会い（量・種類）
- 人を通じた「本」との出会い（多様性）
- 「本」を通じた人との出会い（共感性）

実施体制



活動実績/全体スケジュール

～10/28	10/29-11/4	11/5-11/11	11/12-11/18	11/19-11/25	内容	11/26-12/2	12/3-12/9	12/10-12/16	12/17-12/23	12/24-12/30	12/31-1/6	1/7-1/13	1/14-1/20	1/21-1/27	1/28-2/3		
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回プロジェクト会議 (9/28) 海士町オンライン勉強会参加 ・第2回プロジェクト会議 (9/28) コアメンバーでのアイデア出し ・第1回「図書室整備と読書力向上委員会」初回顔合せ・意見交換 (10/2) ・第3回プロジェクト会議 (10/12) ・第4回プロジェクト会議 (10/16) ・第5回プロジェクト会議 (10/19) ・第2回「図書室整備と読書力向上委員会」第2回顔合せ・意見交換 ・第4回プロジェクト会議 (10/27) 図書館レイアウト作成、意見交換 ・第5回プロジェクト会議 (10/28) 図書館レイアウト作成、意見交換 ・倉斗先生・金子先生、CO-SHA読者との視察 (11/1) ・第6回プロジェクト会議 (11/1) ・第7回プロジェクト会議 (11/11) ・読書週間イベント「みんなの夢見る図書館」スケッチ募集 (～11/9) ・読書週間イベント「みんなの夢見る図書館」スケッチ募集 (～11/9) ・第7回プロジェクト会議 (11/11) ・「夢見る図書館」アイデアシートの分析、ヒアリング ・読書週間イベント「みんなの夢見る図書館」スケッチ募集 (～11/9) ・第8回プロジェクト会議 (11/20) ・プロジェクト活動案についての教育長・教育委員会、学校長、図書担当教員との意見交換 					内容				倉斗先生③ 12/18	事務局面談12/27				事務局面談1/24	事後視察2/1		
						INPUTから始まる読書体験/どこでも本棚											
						シールのデザイン,在校生に選んでもらう	11/26-28										
						寄贈本の受付・リスト化・設置 (メンバー内)											
						寄贈本の受付・リスト化・設置 (町内・一般)					12/24広報掲載				1/22説明会		
						学校で新規に購入した本のリストと、教科別の各学年の指導計画を入手											
						図書担当の先生、管理職、コアメンバーとで選書と配置を決定、シール貼り		12/4,8									
						ユビキタススペースのレイアウト検討 (床や椅子)、モノの設置		12/4,8									
						サンカクコーナーのレイアウト検討 (床、棚)、モノの設置			12/15検討会	12/22PM検討会							
						「どこでも本棚/実験編」モニタリング&ヒアリング&先生アンケート											
						どこでも本棚～実験編への振り返り				12/22の放課後							
						どこでも本棚～拡大編～				12/22PM検討会			1/8検討会		1/22説明会		
						「どこでも本棚/拡張編」モニタリング&ヒアリング、展示レイアウトの変更											
						感想ノートの検討							1/8検討会				
						閲覧テーブル、一箱本棚の製作・設置			既存の机椅子の移動・設置				1/8検討会				
						OUTPUTから始まる読書体験/いつでも自由研究											
						サンカクコーナーのレイアウト検討 (アウトプット利用部分)		12/4の放課後									
						大型掲示板の企画・設置											
						本の展示+イベント①レッツSTEAMチャレンジ発明編			12/12 (火)								
						本の展示+イベント②子ども条例を読みましょう			12/13 (水)								
						本の展示+イベント③子ども図書研			12/14 (木)								
						昼休み本人登場①湯沢中学むかし話								1/16 (火) 昼			
						昼休み本人登場②ピアノと歌と朗読 (大勝先生、信田さん)								1/18 (木) 昼			
						昼休み本人登場③図書館のつくり方 小学生 (萬谷)									1/22 (月) 昼		
						昼休み本人登場④図書館のつくり方 中学生 (萬谷)									1/23 (火) 昼		
					昼休み本人登場⑤テストにさく! 図書館の使い方									1/24 (水) 昼			
					昼休み本人登場⑥僕が馬を連れてここに帰ってきた理由											1/30 (火) 昼	
					昼休み本人登場⑦子どもはなまるカフェ											2/1 (木) 昼	
					読書環境の改善/図書室内のレイアウト検討												
					閲覧コーナーのレイアウト変更案の検討	おすすめ本コーナー		本棚移動・設置									
					図書室内のレイアウト検討/変更①カウンター周り												
					図書室内のレイアウト検討/変更②島の書齋												
					図書室内のレイアウト検討/変更③奥の暗いところ・自習スペース												
					図書室内の変更計画・発注計画・発注				12/22								
					家具の移動、発注したものを設置								採寸、素材提案	発注・製作施工	製作施工		
					モニタリング・子どもや先生からのヒアリング												
					十日町図書館バスツアー			12/10 PM									
					本の展示、本棚の整備・整美												

活動実績/実施内容：10-11月下旬

＜想いの共有と活動内容&場所の検討＞

プロジェクトコアメンバーで、学校図書館の現状分析や図書館を活用した教育のあり方、「読書」の考え方、民間の図書館づくり等に関するブレスト&勉強会を実施。



2023年(令和5年)11月12日(日曜日) 18

湯沢学園

図書室充実へ町民参画

湯沢町の小学校、中学校に当たる湯沢学園で、子どもが本に触れ合う機会を増やそうと、町民有志が学校と連携し、図書室を充実させるプロジェクトに動き出した。室内のレイアウトを変えたり、メンバーお薦めの本を置いたりといった案を詰める。タブレット端末や動画プレイヤーの普及で、読書離れが懸念される中、本を手に取りやすい空間をつくり、学力の基礎と読書習慣のアップにつなげたい考えだ。(魚沼新聞・丸山慧人)

湯沢学園は小学生と中学生計約400人が在籍し、認定こども園をも含む教育施設だ。約2万冊の蔵書がある図書室は授業や休み時間、通

今日1日、湯沢学園に町民や文部科学省のアドバイザーらが集まり、図書室や学園内を視学したプロジェクトは、新しい学びの在り方や環境を考える学校などを対象に、文科省が支援する事業の一つに選ばれている。

見学後の検討会では参加者から、「本を手に取って読むだけでなく、内容を説明できるように話す、仕組みも必要」「子どもだけでなく、保護者も本に興味を持ってほしい」といった意見が上がった。

代表を務めるのは、町内で社会教育活動に携わる松田菜穂さん(50)＝湯沢町「子どもが学校図書をより利用しやすいになれば、読解力やコミュニケーション力の向上につなげるとみる。メンバーの一人で、学園の学校運営協議会も所属の中津秀さん(52)も、子どもの読書力向上のため、地域の大人が力を合わせることで必要だ」と強調する。保護者や卒業生など約100人メンバーに加わった。

プロジェクトは文科省補助金100万円を活用し、当面は2月まで、現在子どもがお薦めの本を紹介し交流を促す、リラックススペース、読書スペースをつくるという案が出されており、具体化が図れる。2月以降については、学校や教育委員会が、調整するかどうかを検討する。

子どもたちも図書館の変化を楽しみにする。今日1日はバスを待つ間に利用していた小学5年の朝陽真生君(10)「自分が興味のある本が分かってほしい。調べている本が分かってほしい位置にある読書室にもなってほしい」と期待した。

文科省の五十嵐俊田環境

湯沢町民有志らが子どもの読書する量を増やすためのアイデアを出し合った検討会＝湯沢町神立

デジタル時代 本離れ懸念
魅力的空間づくり模索

学バスを待つ子どもたちが利用している。本に触れ合う機会は今よりも少ないといふ。近年は高層ビル生活にタブレット端末が配布され、図書への関心低下が懸念されていた。学校側が読書量を増やす取り組みを模索していたタイミングで、町民有志らが今年、文科省の事業を活用し、図書室の充実に連携して取り組むことと働きかけた。

プロジェクトは文科省補助金100万円を活用し、当面は2月まで、現在子どもがお薦めの本を紹介し交流を促す、リラックススペース、読書スペースをつくるという案が出されており、具体化が図れる。2月以降については、学校や教育委員会が、調整するかどうかを検討する。

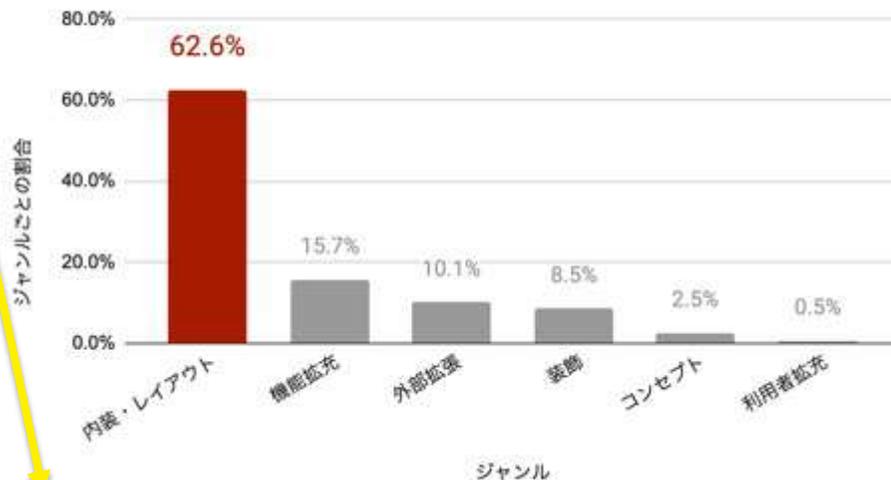
子どもたちも図書館の変化を楽しみにする。今日1日はバスを待つ間に利用していた小学5年の朝陽真生君(10)「自分が興味のある本が分かってほしい。調べている本が分かってほしい位置にある読書室にもなってほしい」と期待した。

教育委員会、学校管理職、司書教諭との現状認識合わせ、プロジェクトアイデアについての意見交換(フォーマル&インフォーマル)

子どもの描く“夢みる図書館”アイデアシートを分析・・・



ジャンルごとの割合 (n=45)



町外の図書館へ行き、子どもの描く“夢みる図書館”像をアップデート。
図書館機能、設備・物品や展示方法の情報収集。



活動① どこでも本棚

* INPUT型の読書体験

「図書室に入ることや借りるまでの過程にハードルがある？」

図書室に入らなくても「読書ができる場所」を作ることにより、「空き時間」に本と触れ合うきっかけを生み出す仕掛け。誰かがおすすめする「寄贈本」を通して、多様なジャンルの本に、強制感なく・偶然に出会えるワクワク感のある本棚を作る。

活動② いつでも自由研究

* OUTPUT型の読書体験

「本を（一人で）読む」ことに苦手意識や興味関心が向いていない？」

アウトプット型の読書体験により、子どもたちの興味関心に基づいた学びを広げる仕掛けとして、地域の大人による「放課後ブックカフェ」「昼休み本人登場」イベントを試験的に開催。アウトプットを共有する場として大型黒板を作る。

活動③ 図書室内の環境整備・整美

「図書室内の魅力が足りない？いごちがよくない？」

居心地良く読書ができる空間にするため、ユニット畳と本棚を設置する。教室以外の「居場所」や「学習スペース」となるよう、既存の物を活用しながらレイアウトも変更する。

学校側と協議の上、プロジェクトで対象とする場所を選定

もったいないスペース①7-9年生の廊下にある「ユビキタススペース」x2箇所



学校側と協議の上、プロジェクトで対象とする場所を選定

もったいないスペース②図書室の横の三角コーナー「閲覧ラウンジ」



学校側と協議の上、プロジェクトで対象とする場所を選定

もったいないスペース ③図書室内の一角



「学校図書館ガイドライン」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm

- 学校図書館は、児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的に読書や学習を行う場であるとともに、読書等を介して創造的な活動を行う場である。このため、学校図書館は児童生徒が落ち着いて読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境を整えるよう努めることが望ましい。
- 館内の配架地図や館内のサイン、書架の見出しを設置するなど、児童生徒が自ら資料を探ることができるように配慮・工夫することや、季節や学習内容に応じた掲示・展示やコーナーの設置などにより、児童生徒の読書意欲の喚起、調べ学習や探究的な学習に資するように配慮・工夫するよう努めることが望ましい。また学校図書館に、模型や実物、児童生徒の作品等の学習成果物を掲示・展示することも有効である。
- また、これからの学校図書館には、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）を効果的に進める基盤としての役割も期待されており、例えば、児童生徒がグループ別の調べ学習等において、課題の発見・解決に向けて必要な資料・情報の活用を通じた学習活動等を行うことができるよう、学校図書館の施設を整備・改善していくよう努めることが望ましい。

「学校施設整備指針」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/main7_a12.htm

8 図書室 <p.26, 小学校>

- (1) 利用する集団の規模等に対して十分な広さの空間を確保するとともに、各教科における学習活動等において効果的に活用することができるよう普通教室等からの利用のしやすさを考慮しつつ、児童の活動範囲の中心的位置に計画することが重要である。その際、必要に応じ、地域住民の学習活動における利用等に対応できるよう配慮することが望ましい。
- (2) デジタル化の中で、図書、コンピュータ、視聴覚教育メディアその他学習に必要な教材等を配備した学習・情報センターとして計画することが望ましい。
- (3) 自習スペースやグループ学習で利用できる室・空間を計画することも有効である。
- (4) 学習・研究成果の展示のできる空間を計画することも有効である。

「学校施設整備指針」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/main7_a12.htm

15 図書室

- (1) 多様な学習活動に対応することができるよう面積，形状等を計画することが重要である。また，**図書が日照により劣化しないよう適切に管理**できる計画とすることが重要である。
- (2) 1学級相当以上の机及び椅子を配置し，かつ，児童数等に応じた図書室用の家具等を利用しやすいよう配列することのできる面積，形状等とすることが重要である。
- (3) **児童の様々な学習を支援する学習センター的な機能，必要な情報を収集・選択・活用し，その能力を育成する情報センター的な機能，学校における心のオアシスとなり，日々の生活の中で児童がくつろぎ，自発的に読書を楽しむ読書センター的な機能**について計画することが重要である。
- (4) デジタル化の中で，コンピュータ教室等と連携又は一体とし，児童の様々な学習活動を支える学習・情報センターとしての機能を持たせた計画とすることが望ましい。
- (5) 学校司書，司書教諭，図書委員等が，図書室の運営，図書その他の資料の分類，整理その他の作業等を行うための空間を確保することが望ましい。
- (6) 資料の展示，掲示等のための設備や視聴覚機器・情報機器を設置したブース等を設けることのできる空間を確保することも有効である。
- (7) **児童がその時々**の状態に応じて居場所にできる小空間・コーナー等の空間を，**学習空間と有機的に関連づけて配置する**など，快適な空間を計画することが重要である。また，椅子やベンチ，畳，カーペットなどの家具を配置し，**児童の自主的・自発的な学びや交流を生み出す工夫**も有効である。
- (8) 図書を分散して配置する場合は，役割分担を明確にし，相互の連携に十分留意して計画することが重要である。

活動実績/実施内容：12月

＜お金をかけずものを設置・移動し、子どもの反応を観察＞

活動① どこでも本棚 (メンバー内で寄贈本を募り実験)



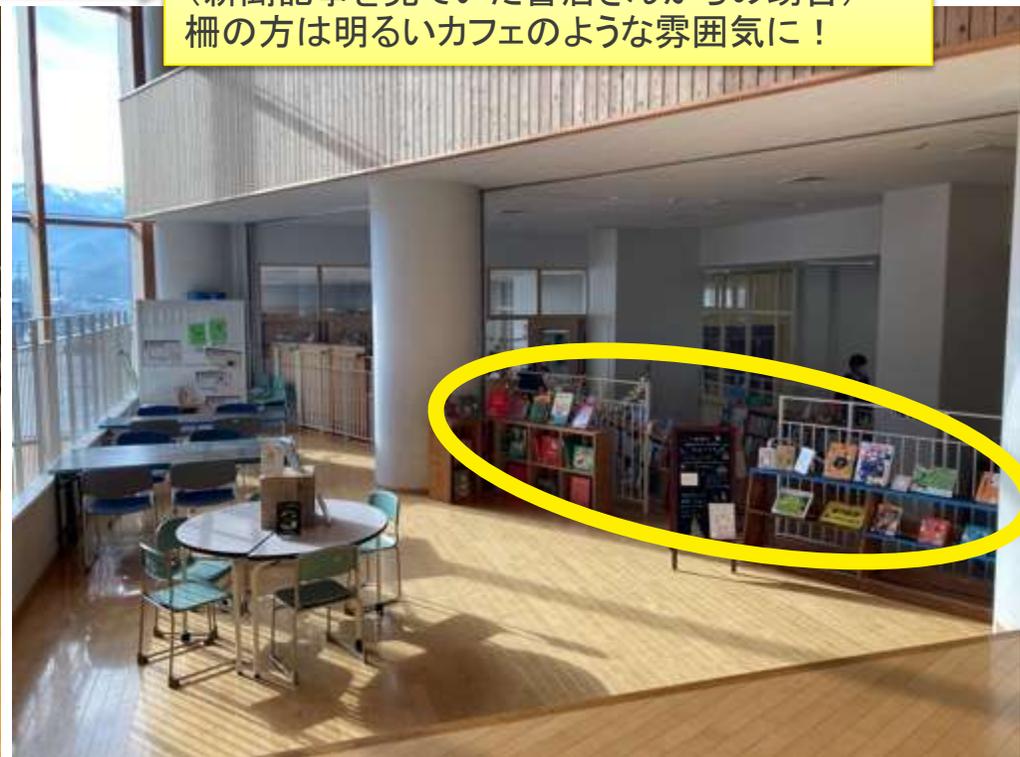
寄贈本は一人5冊まで。おすすめのポイントや児童生徒に向けたメッセージを添えたポップを作った。卒業生がデザインしたロゴマークをつけ、図書室の本と区別が着くようにし、誰でもいつでも貸し出しができるようにした。感想ノートと看板も設置した。



活動① どこでも本棚 (メンバー内で寄贈本を募り実験)

使っていない棚に、寄贈本をおきました。しかし棚の上に置くと本の落下・日焼けの問題が...

本棚の位置を反対側に移動させました。(新聞記事を見ていた書店さんからの助言) 棚の方は明るいカフェのような雰囲気!



活動②いつでも自由研究

放課後ブックカフェをお試し開催

本とあそぼう！
本で語り合おう！

第1回 放課後ブックカフェ
@湯沢学園の図書室
下校後～16:30の間臨時オープン

12月12日(火)	12月13日(水)	12月14日(木)
「さんぼセル」は どうやってできたの？ *4～9年生におすすめ	こどもパブリックコメント をかいてみよう！ *1～9年生対象	好きな本を好きなだけ！ 聞こう・語そう *1～9年生対象

申込み・問合せはこちら

申込みに際するお問い合わせは
学校ではなくプロジェクト
事務局へお問い合わせください
yui@wagakuni.co.jp@gmail.com

文部科学省CO-SHAソウゾウプロジェクト
「湯沢町みんなの夢みる学園図書館プロジェクト」



活動②いつでも自由研究



使っていない机を活用し、児童・生徒が国語や委員会活動で作成した「おすすめ本」紹介シートを添えた閲覧コーナーを作りました。

活動②いつでも自由研究



段ボールで掲示板を仮設し、子どもの反応を観察。
休み時間や放課後にふらっと立ち寄り本を手に取ったり、掲示板を眺めてみたり、自由研究シートに何か書き貼り出す子どもの姿が見られるようになりました。

活動③ 図書室内の環境整備・整美



借りものの畳マットを敷いて、子どもの反応を観察しました。くつろぎながら読書に楽しむ子どもの姿が頻繁に見られるようになりました。



活動実績/実施内容：1月

＜寄贈本受け入れの拡大＞

＜既製品の購入、家具の造作と設置＞

活動① どこでも本棚 (町内在住の一般の方からの寄贈受入れ)

本の寄贈に ご協力をお願いします！

湯沢学園内の読書スペースに、保護者や地域の方々がおすすめる本を紹介できるコーナーを作りました。

小中学生に読んで欲しいと思う本の寄贈を、1人5冊を上限に募集しています。

本のタイトルと選書コメントを事務局までお知らせください。後日、本の受け取り方法等についてご連絡いたします。

日 募集期間

令和6年1月31日(水)まで

問 「湯沢町みんなの夢みる学園図書館プロジェクト」事務局



ブックログというアプリを使って寄贈本を登録し、誰でもリンクからバーチャル「どこでも本棚」の蔵書内容を見られるようにしました。現在120冊ほど登録されています。



活動②いつでも自由研究

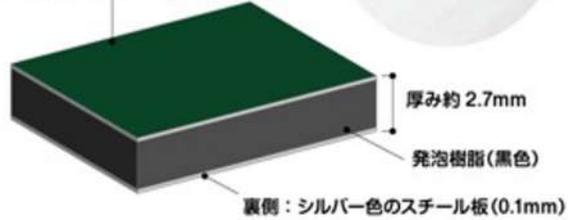


大型黒板、廃材を使った丸テーブル、一箱本棚を
造作し設置しました

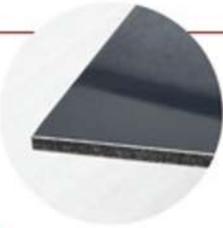
■ 板について ■

発泡樹脂とスチール板の
サンドイッチ構造。丈夫で軽い！

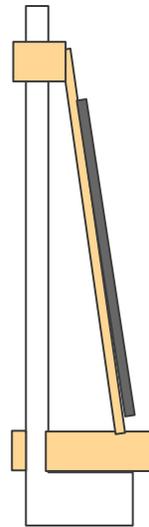
表面：各色のスチール板(0.1mm)



壁紙の凸凹が伝わらない、
板面はいつでもフラットです。



90cm x 180 cm のブラックボードを4枚
* 木枠で固定



柵

<参考>
帝京大共読ライブラリー/カドカワミュージアム



一箱本棚は自由に積み重ねたり移動できるようにし、将来的には一箱本棚オーナー制度や学校内「みんとしよ」ができるようにした。



廃材を利用したテーブルは、児童生徒が触っても壊れたり怪我をしたりしないよう、表面を削り杉板をのせている。

活動②いつでも自由研究

文部科学省CO-SHAソウゾプロジェクト
「湯沢町みんなのゆめみる学園図書館プロジェクト」

1/16
塚沢中学
むかしばなし
原作 高家大香

1/18
ピアノと
歌と
朗読と
Disneyの世界へようこそ
大崎千織・演奏
信田絵里香・朗読

1/22
図書館の
作り方
-上巻-
小学生必読
よろずやひとみ

1/23
図書館の
作り方
-下巻-
中学生必読
よろずやひとみ

1/24
テストに効く！
のつかい方
狂犬出版

1/30
動物好きなあなたへ
お褒めの高！
本物の理由
高井一馬

2/1
子ども
花まるカフェ
スイーツ図鑑
YUKA NAGUMO

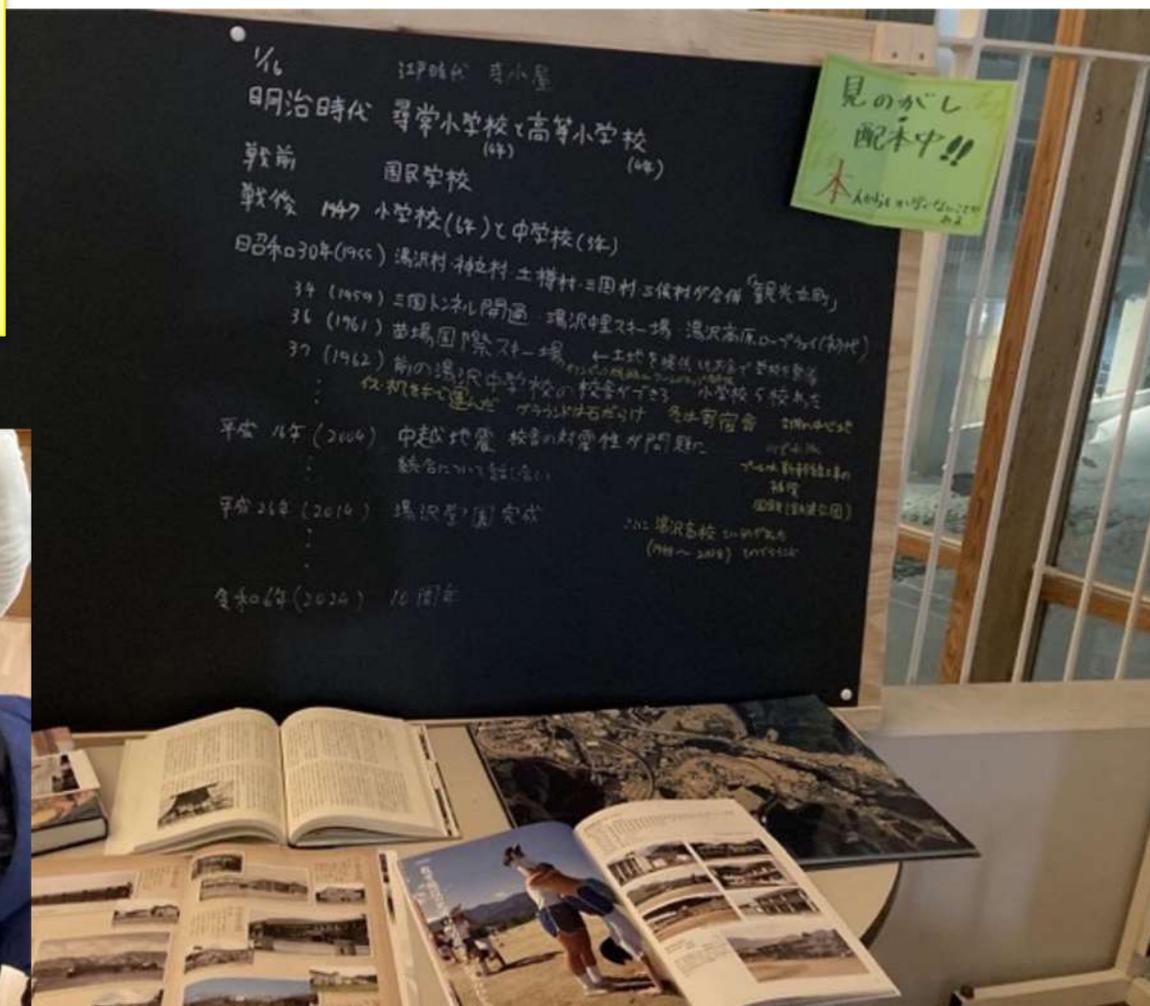
本人登場
昼休みの図書室が面白い！
HII



「湯沢中学むかしばなし」

湯沢中学出身のご本人に登場いただき、本にも書かれていない口承のお話をしてもらいました。普段は開かない図書室の奥にある郷土資料も日の目を浴びています。

本には書かれていないことがある。
本人にしか語れないことがある。





「ピアノと歌と朗読と」

いつもの読み聞かせとは全然違った、本の世界に。
ディズニーの本を並べておいただけで、演奏後に我先にと本を選んで借りにいく子どもの姿が見られました。

本を読んで広がる世界の美しさ、楽しさ。

「図書館のつくり方～中学生編～」

本箱を使って、自分の図書館を作るワークショップ。
伝記の本を詰め込んだ後に考え出した本箱のタイトルは・・・
「人生を詰め込め」!

図書館は自分たちの手で好きに作れるんだ。
本箱は、自分の「好き」を表現することもできるんだ。



「僕が馬を連れてここに戻ってきた本当の理由」
地域おこし協力隊として湯沢町にUターンで帰ってきた先輩が登場しました。馬の食べる草、手入れに使うブラシも見せてもらいました。動物園のない町に住む動物好きの子と大人がとことん好きを追求できた昼休みの一コマ。



「テストにきく！図書館の使い方」

1. ひとくちにテストと言っても人によって受け止め方や理解が異なる、要件を定義せよ
2. テストにはルールがある、ルールを理解せよ
3. 分からない→分ける(時間軸や主語・述語の共通点などで整理)→分かる

図書館は一人で勉強に没頭して良い場所でもあるし、偶然出会った人や本から何かを得られる場所でもある。そこで出会った人同士のそれぞれの学び合いの場。

「子どもはなまるカフェ」

いつもは大人向けの子育てカフェを、特別に子ども限定でオープン！るとららのシリーズや、スイーツのレシピ本を開くと、迷わず「好き」をアウトプットしたくなる子どもたち。

- ①安心の雰囲気の中で自分の好きなもの・ことの話をして、共感してもらう経験や興味を持って聴いてもらう経験をする
- ②普段教室で関わる人以外(違う学年の人、地域の大人)との関わりを楽しむ
- ③興味あるテーマから本に触れてみる
- ④図書館を身近に感じられる場所として認識してもらう



活動③ 図書室内の環境整備・整美

ユニット畳と本棚を設置したところ、
本や漫画を読む子や腰掛けて宿題をする子が
大勢集まるようになりました。





ユニット畳は移動できるのでレイアウト変更が自在。

放課後の学習スペースとして。
地域の人・保護者との談話スペースとして。
教室以外の居場所として。



プロジェクト活動のまとめ

- 授業時間外での個別最適な学びと協働的な学びのための空間（ハード）と機会（ソフト）の基礎を作ることができた。保護者・地域住民として関われるのは授業時間外。授業では扱わない内容を深めたり発展させたり、個々の興味関心を広げたりすることに対し、先生以外の大人が子どもの学びに寄与できる余地は大きい。
- 三角スペースから、「さんかく（参画）スペース」へ。そこにある本を開いて読んだり、椅子に座って談笑したり、掲示板を眺めたり、何か書き込んだり、図書室の中に立ち寄ったり、イベントに参加したりする子どもが増えた。さらに、図書室内の環境をよくしようと、図書ボランティアに声をかけてくる子どもも増えてきた。
- 本の寄贈や休み時間のイベントにより、保護者以外の大人が学校づくりに関わる「関わりしろ」を作ることができた。
- 子どもに読んでほしいと思う本が増えた（約120冊）。子どもにどんな本を読んでほしいか、など考え始める大人が増えた。
- 地域住民・ボランティア・保護者と先生との距離が近くなった。継続配置・実施の方向で検討中。

今後に向けた課題

- 先生方や配置された司書教諭と連携して、“授業時間内”での個別最適な学びと協働的な学びに繋げていくこと
- 「どこでも本棚」の充実のために、地域の大人、特に保護者の参加を広げ、持続的に受け入れの管理や配架レイアウトを更新し続ける方法・体制を検討すること
- 児童生徒による図書館づくりを支えるための教師や地域住民の関わり方を検討すること
(司書を配置し任せたまにするか、司書機能を担う多様な大人が司書機能を支援するのか、あるいは”子ども司書”を育てるのか)
- 放課後の居場所問題や学習・自習スペースとしての学校図書館の活用を検討すること
- メディアルームや地域交流センターの有効活用方法を検討すること

プロジェクト活動全般の振り返り

- 当初は、保護者や学校ボランティアが中心となり提案したプロジェクトであったため、学校施設の中でも「地域交流センター」のレイアウト変更を予定していた。しかし、学校関係者側と協議した結果、子どもの読書力の向上に直接関わり、かつ現状有効活用できていない「ユビキタスペース」「閲覧ラウンジ」等読書をするために元々設計されていた空間を対象とすることになった。
- 一般市民に開放された学校図書館・ラーニングコモンズにするのではなく、児童生徒のためになることを第一に考え学校図書館を機能させるためのハード・ソフト面の投入を行った。寄贈本の選定やイベント・ワークショップを主催したメンバーからは、大人の側が学んだり考えたりすることが多かった、という感想が多くあったことから、結果的には関わった大人も子どももそれぞれ互いに学びあう場になっていたと言える。
- 所属の異なる多様なメンバーが関わりながら進めたプロジェクトであり、協働的な学びの難しさ面白さ両面のある学びの多いプロジェクトだった。